

しおぶがま

No.33
2011
SPRING

特集1 特集 うえるかむ♥ふくしま

福島Style地消地産

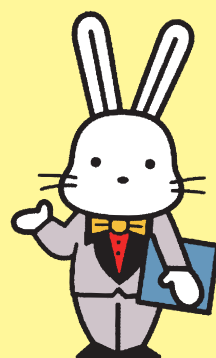
～新しいライフスタイルの提案～



表紙紹介

文知摺観音

源融(みなもとのとおる)と虎女(とらめ)の「悲恋(ひれん)物語」で有名な文知摺(もちずり)石のほか、観音堂・地藏尊・多宝塔などがあり、「文知摺(もちずり)観音」の名称で市指定史跡及び名勝に指定。松尾芭蕉が訪れ「早苗とる手もとや昔しのぶ摺」と詠む。多宝塔は地元の大工藤原右源次(ふじわらうげんじ)作で文化9年(1812年)建立と伝えられる。県指定重要文化財。



少しでもグローバル

こんにちは!ってなんて言うの?

韓国(韓国語)안녕하세요?
アンニョンハセオ

フィリピン(タガログ語)Magandang tanghali.
マガンダング タングハリ

インドネシア(インドネシア語)Selamat siang.
スラマシヤン

ドイツ(ドイツ語)Guten Tag.
グーテンターグ

アメリカ・オーストラリア(英語)Hello.
ハロー

福島に住む外国人の方に聞きました。

うたがむふたしま

福島市には外国人の方がおよそ1,800人お住まいになっています。(平成22年現在)国籍、性別、年齢、居住年数等は様々ですが、皆さんの目にこの福島はどう映っているのでしょうか? 男女共同参画について、福島のいいところ、自国との違い、今後の夢等について6人の方にお話を伺いました。皆さんから見える福島には私たちが気付かない、知らない福島があります。そして、皆さんの国には私たちの知らない世界があります。これを機に私たちの住む福島について考えてみませんか?

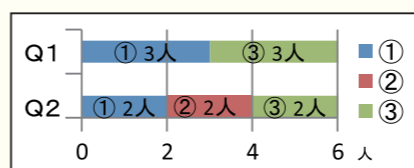
今回お話を伺った6人の方にお聞きしました。

Q1. 日頃の生活の中でどのように感じていますか?

- ① 男性のほうが優遇されている
- ② 女性のほうが優遇されている
- ③ 男女平等である

Q2. 「男は仕事をし、女は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか?

- ① 賛成(そう思う) ② 反対(そう思わない)
- ③ どちらとも言えない



私はドイツの大学で日本語も学んでいる留学生です。福島に来て7ヶ月になりました。ゼミで浄土平や裏磐梯、喜多方に行きましたが福島はとて自然が豊かです。私の地元にもライン川はありますが山がないのでとても新鮮でした。日本に来て不思議に思った事は、日本人カップルが公共の場所ですみつきながない事です。ドイツは公共の場所でもすみつきなぐりで周りから見てもカップルだと分かりました。日本だと分かりません。現在ドイツでは日本と同じように共働きの夫婦が増えています。女性が家庭を守る事も非常に大事な事だと思えますが、私は勉強した事を生かして働く経験をもしてみたいと思います。1年間の留学でドイツの大学へ戻る予定ですが、卒業後は日本で通訳の仕事をしたと考えています。(ドイツ・学生・20代)



ありがとうございます!ってなんて言うの?

韓国(韓国語)고맙습니다
コマウヨ

フィリピン(タガログ語)Salamat.
サラマツト

インドネシア(インドネシア語)Terima kashi.
テリマカシ

ドイツ(ドイツ語)Danke schön.
ダンケシェーン

アメリカ・オーストラリア(英語)

Thank you.
サンキュー



福島に来て7年半になります。以前は関西に住んでいました。東北の人はシャイで関西の人に比べて、あまり話しかけてくれません。若い人は違って来たけれど、年配の人たちは、男女の平等がないように思えます。日本は夫の愚痴を他の人に話している人が多いと思います。アメリカの女性に比べて人生を自分で変えるのは難しい。アメリカでは単身赴任をすると、結婚がうまくいっていかないのかなと思われれます。親の面倒も子供達が話し合っ決めてくれるので長男が必ず見るわけではありません。夢はもっと日本語がうまくなりたいし、世界中を旅行したいと思えます。(アメリカ・主婦・30代)



私は福島に来て3年目になります。福島の果物(特に柿、梨、りんご)がおいしいところが好きです。また、吾妻山の雪うさぎや、白鳥が来ることも福島のすばらしいところだと思えます。私は仕事が終わって帰宅してからは娘の世話をしています。妻は日頃料理をしたり掃除をしたり、育児で忙しいようにみえます。家庭・家族においては、父親はもっと掃除などをして手伝った方がいいと思えます。

私の夢は「家族がみんな幸せなこと」です。(インドネシア・会社員・40代)



日本に来て12年になります。福島は冬が寒いので、そこが好きです。フィリピンは夏がとても暑いので半袖しか着たことはありません。だから福島の寒い冬が好きです。日本に来た当初は温泉や銭湯が取っつきませんでした。みんなでお風呂に入る習慣はありません。日本語が良くわからない時は全部自分が悪いと思っていました。フィリピンの人は人見知りしないで何でもWelcomeだけど、日本人は違います。壁があるような...。

私たちフィリピン人は男の人は仕事をして、女性は家庭を守るべきであるという考え方です。早く子供ができればいいなと思っています。(フィリピン・パート・30代)



私は来日して27年、福島に住んで22年のオーストラリア人です。福島は信夫山・温泉と自然がすばらしく親切な人も多いと思います。オーストラリアは日本と似ている事が多く数十年前までは男性が外で働き、女性が家庭を守るというのが一般的でした。しかし1960年代に同職であれば男女同賃金。1980年代には政府による男女差別の禁止により、今では女性もパートタイムやフルタイムの仕事を積極的にするようになりました。

オーストラリアとは違い、日本の父親が家族と夕食を共にする時間が少ないことは残念に思っています。私は今、ジャズにとっても魅かを感じています。トロンボーンの実習にも力が入り、福島を音楽で元気にしたいと思えます。(オーストラリア・大学講師・60代)



福島に来て20年になります。今ではおかしいとは思わなくなりましたが、レストラン一人で食事をしたり、お酒を飲んでいる人を見てびっくりしました。韓国では友人や家族とおしゃべりしながら食べるので不思議でした。日本は韓国に比べて仕事をしている女性の割合が多い。仕事や家事を完璧にするのは大変じゃないのかな? 女の人が家庭を守るべきであるとは思われないけれど、少し仕事を減らして自分の時間や楽しみを持っていいのではと思います。これから子供も独立するだろうし、自分のための何かを見つけたいです。(韓国・主婦・40代)



ふくしまstyle地消地産 ~新しいライフスタイルの提案~



福島市の街なか広場にて県内各地の農産物、加工品、調理品を青空市で販売するイベント「街なかマルシェ」を過去2回主催した福島大学経済経営学類の小山教授のゼミ内の「福大まちづくり株式会社」にお邪魔し、小山准教授と学生の吉田さんにお話を伺いました。(以下敬称略)

「福大まちづくり株式会社」とは?

平成二十二年七月にゼミを母体とした学生による株式会社を設立しました。

営利追求だけのスタイルではなく、新しい地域づくり、街づくりに株式会社ができるなら関わられるかを考え、貢献しようとする会社があってもいいんじゃないかと考えました。もう一つは地域貢献をしながら納税も払い税収にも貢献したいという思いもあります。

過去2回の「街なかマルシェ」では高齢化の進む地域の商品を輝かせるため、生産者と福島大学の学生と一緒に商品開発を行いました。現地の人にはおいしい物、良い物を生産してもらい、学生はその商品を売るための若者らしいアイデアを提供するという形で地域、年齢を超えた取り組みを行いました。

「ふくしまstyle」を提案する「街なかマルシェ」とは?

「街なかマルシェ」とは中心市街地で県内各地の農産物、加工品、調理品を青空市で販売するイベントです。中山間地域の商品にスポットを当て、販売することはもちろん、消費者とのコミュニケーションを通して産地や商品のストーリーを消費者に伝えることで、そのお店のリピーターになつてもらうことも大きな目的

の一つです。

「ふくしまstyle」とは、消費者の普段の食卓をできるだけ福島産の食材で揃えようとするスタイルで、地元で生産した農産物を地元で消費する「地産地消」ではなく、地元の人々の生活に合わせて必要な農産物等を生産する「地消地産」を目指すものです。

活動を通じて...

開催前の準備段階で出店者の方々にイベントのコンセプトを伝えることが非常に難しかった。産地で一緒に作業をして汗を流すことで自分たち学生が本気だということを感じてもらえたことが嬉しかった。

福島県の食卓を全部福島の食材で埋めたいというコンセプトを通して出店してくださった産地の方々と開催協力団体の方々とともに関わりあっていくことで信頼関係を築くことができ本当に良かったと思います。学生達も出店



▲「街なかマルシェ」の様子

者の方々と一体感を感じることができ喜んでいました。ただモノを売るという段階の次の段階を体感できた。一緒にお店を作るという感じですね。

「これから活動について」

ありがたいことに「また開催して欲しい」という声を頂いている。場所、規模等、次回の開催に向けて検討している。

季節、時間帯など福島でやる場合どのような組み合わせで行うのが効果的かデータをとっている段階です。活動を通して福島の人に福島に住む良さを伝えていき身近な福島の食材がそう環境のこの福島に住みたいと思う人がもっと増えて欲しいと思う。そこまで考えての「街なかマルシェ」です。

《取材を終えて》

今回お話を伺って、純粋に地元の良い良さを伝えるために産地の人とのつなぎ役を行いながら自分の思いを伝える大切さと嬉しさを、コミュニケーションの大切さを感じました。

地元の良さを真剣に見直し、見つけたことを周りに伝えていくことが街づくりにつながっていくと思います。

まずは普段の生活ではなかなか見えない自分の身近にある良いところを改めて探してみようと思います。



また皆さんのお手元に『しのぶびあ』をお届けする

ことができ嬉しく思います。今回の特集では六人の外国人の方に話をお聞きしました。たとえ肌や目の色、話す言葉が違ってもお互いを思いやる心、家族の幸せを願う心は一緒だということを改めて感じることができました。皆の笑顔が見たいという想いは世界共通なのですね。

昨年十一月にアクティブシニアセンター「A.O.Z(アオウゼ)」を含む「MAXふくしま」がオープンしました。街の中が活気づくことはとても嬉しいことです。福大生による福島スタイルを提案する「街なかマルシェ」も「地産地消」ではなく、あえて「地消地産」とし、地元の人々の生活に合わせて、必要な農産物等の生産を目指すとのお話も、とても力強いものを感じました。

福島の良い良さを伝えていき、福島に住みたいと思う人がどんどん増えて欲しいと思います。

編集

しのぶびあ編集委員会

- 加藤麻里 佐藤映枝 松本 恵
- 菅野綾子 佐藤雅一 佐藤裕子

表紙：切絵作家のさとうてるえさんの作品です。

※「しのぶびあ」は市政だより折込のほか、各学習センターなど市の窓口にあります。

また、市のホームページでもご覧いただけます。

